

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

伝承する「科学する心」／社会福祉法人徳雲福祉会 千代川保育園

「子どもたちが匂いを嗅いで『このタオル○○さんのだ！』と言い、渡している姿がある」といった話を耳にしたことがあります。今回は、手に着いた匂いから、様々な葉っぱに興味をもち、さらにその葉っぱを探索する4歳児の姿が、3歳児に刺激となって、自然への関わりが広がっていった子どもたちの事例をご紹介します。



● いい匂いがするよ～4歳児から3歳児へ～

✿ 事例：同じ匂いの葉を探す（4歳児）／手の匂いを手がかりに探した草

花づくり活動中の草引きをいつものようにしていた子どもが、自分の手の匂いをかいで「何か匂う？」と不思議そうに友達に伝えていた。

周りにいた子どもたちは興味津々でその子どもの手の匂いを嗅がせようと、「何やこれ」「いい匂い」「変な匂い」「何か知ってる！」と口々に感じたことを言葉にして表現していた。

どの草の匂いなのか子どもたちは一つ一つ手に取って探しに出掛けた。

子どもたちはあっという間に見付け出し、集めた葉っぱでバケツはいっぱいになった。

匂いだけではなく「葉っぱの裏表で色が違う」「ざらざらしている」など、他の草との違いに気付くことができた。

✿ 事例：教えてもらった（3歳児）／葉っぱに匂いがあるんだ！

ある日、4歳児のお兄さんお姉さんたちが“よもぎ”を見付け「よもぎっていい匂いがするんだよ」と教えてもらう。

花に香りがあることは以前から知っていたのだが草にも匂いがあることを知った。

葉っぱの匂いを嗅ぐようになる。

「匂いのある草を探したい!!」様々な匂いを嗅ぐ姿から、子どもたちの嗅いだ匂いがする草探しへの意欲が伝わってくる。

それと同時に「これは何？」と違う植物に興味をもつことにも繋がる。

かすかに匂いはするが“よもぎ”程強く、また、いい匂いをなかなか探し出すことができない。

保育園の広い敷地の中で草木が茂っている所…と子どもたちは粘り強く考える。畑にならあるのではないかと子どもたちの期待感が高まる。

4歳児のよもぎを探し当てたお兄さんお姉さんにも草探しを手伝ってもらおう。



✦ 事例：匂いのする葉っぱ発見（3歳児）／この匂い知ってる！

ラベンダーを見付ける。

「あっ、これ何かいい匂い」「ほんまや」手で葉っぱを擦って匂いを嗅ぐ。
「これも、すごい匂いする！！」「いい匂いー！！」「この匂い知ってる！」と言
い喜んで嗅いでいる。

シソを見付ける。シソの強い匂い、いい匂いを嗅いで子どもたちは納得した様子。
発見を喜び、嬉しい気持ちで順番にシソの葉を回し夢中になって匂いを嗅ぐ。
「いい匂いー」と匂いがあることに満足感を得ていく。
すると「この匂い知ってる！」「食べたことある」と言う。



✦ 事例：葉っぱを食べる虫発見（3歳児）／バッタを見つけた！

シソの葉っぱをよく見てみると穴がたくさん開いていることに気付く。

「何の穴かな？」「虫が食べたんかな？」と話しているところで、保育者が「みんなはいい匂いのするご飯か、何にも匂いのしないご飯とどっちが好き？虫さんはどうかな？」と問いかける。

「いい匂いがする葉っぱが好きやと思う！」と、子どもたちの答えはみんな一緒だった。

そこで葉っぱを食べる虫さん探しに出掛ける。

草むらを歩くとピョンピョンとバッタが飛び出してくる。

バッタを虫かごに入れて、食べると思う草を入れる。翌日、虫かごを見た子どもたちがバッタのうんちの量の多さに驚く。
「うわあーうんち」「黒い！」「細長いやん」「匂いは？」「くさっ！」と言い、最後には「みんなも臭いうんちするやん」と言いバッタをかばうようになる。

✦ 考察

3歳児が「匂いのある葉っぱ」の存在を4歳児に教えてもらうことがきっかけとなった。子どもたちは園内の葉っぱの匂いを片っ端から嗅いでいき、「自分たちも見付けたい」と意欲を見せた。親しみのある匂いのするシソを見付けると、多くの子どもは達成感を得て満足気だった。しかし、シソの葉の虫食いの穴に気が付くと、子どもたちは、生き物への興味が深いため、葉っぱから、虫へと関心が移行していく。バッタのうんち体験に見られるように、より深い興味や驚き、好奇心に左右され、「いきあたりばったり」的ではあったが、自然をそのまま受け止め、感動しているように見えた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」